

とやま 保険医新聞

2014年 富山県保険医協会
7/25 富山市桜橋通り6-13、フコクビル11階
第363号 (076) 442-8000、FAX 442-3033
発行人 矢野博明
(年間購読料6,000円・一部500円)

主な記事

- ・開示資料から「自主返還件数と金額の分析」(2面)
- ・保団連北信越ブロック会議 分科会報告 (3面)
- ・小林節憲法講演会 講演要旨 (4~5面)
「安倍政権の憲法解釈の大転換をどうみるか」
- ・歯科指導監査問題懇談会 講演要旨 (6面)
- ・「全国在宅医療テスト」受験申込のご案内 (7面)



真剣に胸骨圧迫に取り組む参加者と見守るインストラクターたち

強く **速く** **絶え間なく**

まず胸骨圧迫、心臓マッサージを
医療安全管理研修会
「いざというときの救急蘇生法」を開催

協会は六月中旬、県内四会場で、医療安全管理研修会を開催しました。参加者は合わせて一八六八名。
講師は富山大学附属病院災害・救命センター診療教授の若杉雅浩先生。実技では一グループ参加者五〜六人にそれぞれのインストラクターとして、同大医学部から研修医や学生のみならずから協力いただきました。
若杉先生は、「今まで習ったABCは忘れて、倒れた人の様子がおかしいな、と思ったら躊躇せず心臓マッサージをしてください。それも強く・速く・絶え間なく、です。」と強調しました。(講演要旨は八面)

加藤武彦デンチャー講座 デンチャースペース義歯の実際 ～顎堤の瘦せた高齢者に安定した義歯を～



ボルファートとやま 4F 琥珀

講師の加藤武彦先生

協会は七月十三日(日)「デンチャースペース義歯の実際」と題した研究会を開催し、歯科医師や歯科技工士など五十二人が参加しました。
顎堤の吸収が進んだ高齢者が増えているなか、そのような顎堤であってもしっかりと安定して簡単には外れない、良く噛んで食べることのできる義歯が求められています。
講師の加藤武彦先生(横浜市開業)は、従来の義歯製作方法では対応が難しい顎堤吸収症例に対しては、顎堤に加え頬粘膜・舌下粘

膜で支持するデンチャースペース義歯が有効であることとを、理論と実践に基づいて熱心に講演されました。午前は、デンチャースペース義歯を応用した口腔ケアの実践について、外来診療にとどまらず、訪問診療における義歯製作の事例など豊富な症例を使って紹介。午後は、デンチャースペース義歯製作の理論について、解りやすい解説があり、参加者にとって充実した一日となりました。なお、富山県歯科技工士会と和田精密歯研株式会社が後援しました。(詳細は次号)



富山会場：ボルファートとやま



高岡会場：ウイングウイング高岡



砺波会場：砺波平安閣



魚津会場：新川文化ホール

第35回 保険医作品展&ファミリー展

診療の合間で製作した力作が所狭しと
今年は富山市民プラザ2Fギャラリーで



協会は三千五回目となる保険医作品展&ファミリー展を、七月一日から六日の日程で開催しました。
今年は二十三医療機関五十一人から七十九点の作品が出品され、六日間の来場者は七三五人。
今回、会場を富山市民プラザに移したことで、例年とひと味違った雰囲気の商品展となりました。

すつかり有名になった安倍首相が使った説明パネルであるが、私もテレビで見ている。
パネル中央の米艦船にかぶせるような形で、赤ちゃんを抱いた母親の心配そうな顔が大きく描かれていた。難しい説明より情に訴えたほうが国民には理解されやすいと、首相の強い指示で作成されたが、専門家はあり得ない事例だという。どこまで国民をバカするのだろうか。
パネルの内容はともかく、それを見ながら近所の戦争未亡人から聞いた話を思い出した。
その方のご主人は一片の赤紙で召集され、前線で負傷し、病院船で日本に移送中に攻撃を受けて撃沈させられた。遺骨はおろか遺品すらなく、一通の死亡通知のがきで事実を知ったそうだ。涙ながらに話されたのを昨日のこの様に思い出してしまつた。
戦後一貫して憲法九条のもと、日本丸は平和に航行してきた。安倍船長に替わって突然、海外での武力行使辞さずと舵を切り始めた。乗組員もおかしいな、と思いがちながらも意見するものもない。余りにも軽い政治家たち。もし事故が起きたら、あの船長のように我先に逃げ出すのではないだろうか。(Y・O)